



キャリアアドバイザーに聞いた!

転職サリセス への道

ROAD TO "TENSYOKU SUCCESS"

vol.18

ADVISER

キャリアコンサルタント
村本麗子氏



ビジネスマンスクール東京・札幌の首席講師として年200回以上の授業に登壇。公共団体や企業への研修の提供や、企業、経営者、起業家へのコンサルティングや講演など、活動は多岐にわたる。脳科学理論をベースとしたコーチングでは、北海道における第一人者。株式会社ヒト・ラボ 代表取締役。

あなたの短所はなんですか? と聞かれたら…

面接とは自分の長所をプレゼンする場なのに、よりによって「短所を教えてください」という答えづらい質問が。あなたならどう答えますか?

面接官はなぜそんなことを聞くのでしょうか。

面接官が短所を尋ねるのはズバリ「うちの会社やこの職種に向いているか」をダイレクトに判断したいから。接客の仕事なのに「人と話すのが苦手」、スタッフ管理の募集なのに「優柔不断で決断力がないと言われる」という答えは、「向いていないのでは」という判断材料になります。また自身を冷静に客観視できる人材か、という観点で質問を投げかける面接官もいるようです。

なので、伝える短所を選びましょう。

どんな人にも短所はあります。「特に無いと思います」というような答えでは、不正直で誠実さが無い印象を与えるので注意しましょう。また短所を尋ねられたからと言って、全てを正直に羅列する必要はありませんし、ましてや

社風や募集職種にそぐわない性格などを伝えるのも本末転倒です。基本的には自分で気づいているいくつかの短所の中で、今回の応募にマイナスの影響を与えないものを選びます。

ただ伝えるのではなく「補う努力」を添えて。

先にも書きましたが面接はプレゼンの場。短所を伝えることさえも、面接官に好印象を与えるような努力をすべきです。この場合のポイントが「補う努力」をアピールすること。例えば営業職の面接で、自分の短所が「頼まれたら断れないタイプ」ならば「こういう性格なので、お客様の難しい要望でも創意工夫を重ねながら解決することが喜びです」、事務職の募集で短所が「おせっかい」なら、「以前は後輩の面倒を過剰に見てしまっていたので、最近では必ずクールダウンしてから声をかけるよう心がけています」などが好例。

こういう言い回しをするためには、あらかじめどの短所を伝えるか決めておくことが大切ですね。

謙虚な態度も見られています。

短所を魅力に伝えよう…とい

う思惑からなのか、短所を明るく伝えている方も多いそう。あくまでも「自分にはこういう短所がある」というのが前提なので、最初は控えめに話すこと。補う努力を伝える時に、次第に前向きな態度を示すのがベストです。

イラスト準備中